



かんごうしゅうらく
— 横浜の弥生環濠集落 —

34



濠で囲まれたムラ



権田原遺跡にみられる環濠

さんたつばら
権田原遺跡は港北ニュータウン遺跡群の一つであり、横浜市北部を流れる鶴見川支流の早淵川右岸、標高20～25mの台地上に位置します。権田原遺跡の上流左岸には国史跡として著名な大塚遺跡が位置し、権田原遺跡との距離は直線距離で約2kmです。権田原遺跡は旧石器時代から古代まで続く複合遺跡ですが、弥生時代中期の環濠集落として著名です。環濠の大きさは南北約240m、東西約150mの長方形に近い形で掘りめぐらされています。濠は幅約4m、深さ約2mの逆台形またはV字形をしています。環濠内には約30軒の弥生時代中期の住居址がみられ、環濠の外側には周囲を4本の溝に囲まれた墓である方形周溝墓群があります。

しょうこう
関東地方の環濠や条濠等の溝をもつ集落は200例を超えます。利根川以北では少なく、東京湾を中心とした関東平野に集中します。特に権田原遺跡のある鶴見川流域には環濠集落が多いことがよく知られています。

かんこうしゅうらく 環濠集落

～濠で囲まれたムラ～

※「濠」の字は本来水堀を表すため、溝の中に水を湛えていない弥生時代の環濠の「濠」を「壕」と記載する場合があります。

ムラの周囲に「濠」をめぐるせたものを一般的に環濠集落と呼びます。稲作文化の一環として大陸から伝わりました。

大塚遺跡 全貌

・濠が住居をぐるりと囲んでいるのがわかります

住居址

・たくさんの楕円形のは住居のあとです
・ほとんどの住居址に壁に沿って通らせた壁溝がみられます

都筑区大塚遺跡は鶴見川の支流、早瀬川を眼下に臨む丘の上にあります。台地の縁に地形的に沿った形でカヌー・ナツツ形の環濠が住居を取り囲んで全周します。環濠の外側、南東に隣接して大塚の人々の墓と考えられている歳勝土遺跡があります。環濠と住居は同時期に作られたと考えられています。環濠集落の大きさは約2万㎡あり、弥生の代表的環濠集落として紹介されますが、鶴見川流域の最大の集落ではなく、綱崎山遺跡、権田原遺跡、朝光寺原遺跡などの2万～3万㎡規模の一連の環濠集落遺跡の一つとみられます。

環濠と住居

右頁の環濠の中には住居を切った環濠が掘られているものがあります。これは住居が廃絶した後に環濠を掘削したためです。集落生活開始と同時に環濠を作られたわけではなく、6・7頁の復元図では、環濠を掘る前に住居が何軒あった様子を表しました。

新(A)環濠

環濠外縁:23440㎡
環濠内縁:21100㎡
掘削土量:1900㎡

古(B)環濠

環濠外縁:21440㎡
環濠内縁:18780㎡
掘削土量:2900㎡

●中期の遺構 ●後期の遺構

大塚遺跡 西上空より

・全貌のわかる環濠集落

大塚遺跡 環濠と南東部住居址群

・遺跡が台地上にあるのがよくわかります
・住居のすぐくわで環濠が掘削されています

かんこう
環濠

・規模200×130m
・環濠の一部は新旧2重
(古いものは等高線に沿ったカヌー・ナツツ形
新しいものは谷の部分に突っ切った楕円形)

大塚遺跡の全体図と復元住居など
●115軒の竪穴住居が見つかっています
●大半の住居が弥生時代中期後葉のものですが、ムラの北西には環濠に隣接した高跡があります

大塚遺跡と
歳勝土遺跡

大塚遺跡と歳勝土遺跡はもとは別々の名前の遺跡を併置しましたが、この2つの遺跡は、2つで1つの生活の場、1つのムラであったと考えたほうが良いということで「大塚・歳勝土遺跡」とよばれます。

A・B環濠が重複

歳勝土遺跡

歳勝土遺跡は大塚遺跡と谷をつなぐ環の台地にあります。ここからは奥の山を400を区切った形の方形周溝環濠と呼ばれる遺構が約25基みつかりました。大塚遺跡で暮らしていた人がここへ移ってきたのか、歳勝土遺跡の墓に葬られたのかです。

横浜市歴史博物館 1995
「横浜市歴史博物館展示案内」を一部加工

横浜市内の弥生環濠集落

- 横浜市内の環濠集落は、大塚遺跡に代表されるように、鶴見川とその支流にあたる早瀬川に多く分布します。折本西原遺跡や大塚遺跡の古段階の環濠の形成に始まり、権田原遺跡、綱崎山遺跡、矢崎山西(柚木台)遺跡へと再編成され、その周囲に環濠を持たない小規模な集落が展開します。これらの環濠集落は一定の距離をおいて位置しています。西日本から広がってきた弥生文化は、関東地方ではやや遅れてはじまり、横浜地域では中期後葉の宮ノ台式期に遺跡が急増することから、この時期に計画的にこの地へ農耕集団がやって来て、拡大していったと考えられています。しかし、これらの環濠集落はなぜか中期末葉に一気に廃絶し、後期初頭遺跡は非常に少なくなります。その後人口が回復したようで、後期中葉以降、遺跡数は増大します。後期には中期の環濠集落が稀薄であった武蔵野台地や相模野台地に環濠集落の顕著な分布がみられるようになり、横浜地域では、大岡川、粕尾川流域でも形成されるようになります。



大塚遺跡は横浜市歴史博物館に隣接して大塚・歳勝土遺跡公園として整備され、環濠も復元展示されており見学可能です。

横浜市内環濠一覽

No.	遺跡名 (よみ)	所在地	流域	立地	標高 (m)	時期	全長 (掘出長) (m)	規模(m) ※()は推定値	規模等				断面形	備考		
									幅(m)	深さ(m)	角度(°)	面積(m ²)				
1	江戸山 (えどやま)	鶴見区	鶴見川	台地	20	後期?			詳細不明							
2	蔵山 (かじやま)	鶴見区	鶴見川	台地	40	中期	溝Ⅰ:(17) 溝Ⅱ:(9)		溝Ⅰ:0.5-0.7 溝Ⅱ:上面0.5-0.9 底面0.3-0.4		溝Ⅰ:0.5 溝Ⅱ:0.6		逆台形 逆台形	溝Ⅰに直径6cmほどの穴30個以上有		
3	上台 (かみだい)	鶴見区	鶴見川	台地		後期	(56)		1.4-2.8		0.2-0.6		逆台形	1号溝に硬化面		
4	平床台 (ひらじだい)	港北区	鶴見川	台地	25-28	後期			詳細不明				V字形・U字形			
5	寺谷戸 (てらやと)	港北区	早瀬川・ 鶴見川	台地	35-38	後期	(20.6)		上端:1.35-1.70 下端:0.10-0.40		0.4-1.97		V字形	底面より40-110cm上で一旦積を持つ		
6	森戸原 (もりとはら)	港北区	早瀬川・ 鶴見川	台地	32	中期?							V字形～逆台形			
7	芝ノ原 (みやのはら)	港北区	鶴見川	台地	43	中期	(7)		2.2		0.95		V字形	分布調査の際、南西部の工場敷地のための崖で見		
8	吉富土塚 (よしくみづか)	港北区	鶴見川	台地	40	中期			詳細不明				詳細不明	未調査		
9	矢崎山西(榎木谷) (やざきやまにし)	都筑区	早瀬川・ 鶴見川	台地	30	中期	(27.6)	(200×140～150)	3.0 1号溝:3.40(上端) 0.60(下端)		2.0-2.5(地表面) 1.08-1.28		V字形	溝底に筒型の埴込みが3か所。横田用の可能性あり。		
10	大塚 (おおつか)	都筑区	早瀬川・ 鶴見川	台地	50	中期	古(8):600 新(A):970	古(8):200×130 新(A):200×130	古:上層幅4-4.5 底幅1.2-2.3 新:上層幅2.4-4.2 底幅0.5-1.6		古:1.4-2.2 新:0.9-1.6	新:内側は急傾斜、外側は緩傾斜	古(21440) 新(23440)	逆台形		
11	綱崎山 (つなざきやま)	都筑区	早瀬川・ 鶴見川	台地	30	中～後期	A:(128) B:(160) C:(85) D:(25) E:(150)	B溝(200×150)	2.0 1.0-1.8 1.6-3.8		2.0 0.5-1.8 0.8-1.6		中(17000) 後(22770)	V字形～逆台形		
12	権田原 (ごんたはら)	都筑区	早瀬川・ 鶴見川	台地	25	中期	西溝:(206) 南東溝:(144)	240×150	4.0		2.0		(33740)	V字形～逆台形		
13	大塚 (おおつか)	都筑区	早瀬川・ 鶴見川	台地	44	後期		(130×100)	上層幅:1.6 底面幅:0.7-1.0		1.0	50-65	(11290)	逆台形	4つに分断	
14	折本西原 (おりのにしはら)	都筑区	鶴見川	台地	25	中期	古:(130) 新:(45)	(500×200)	古:幅面幅1.2-2.3 底幅0.8-1.0 新:幅面幅2.9-3.0 底幅0.2-0.5		古:0.6-1.1 新:1.4-1.8		古:60 新:50-65	古:逆台形 新:V字形	・2か所で長さ2～3mの人為的な埋返しと疑われる確認。除障部か。 ・内側に段差や溝底部に段の残りこみ(両側)が一箇所確認。	
15	新沼南 (にしばみなみ)	港北区	鶴見川	台地	33	後期	5号:(11.8) 6号:(15.5)		5号:0.45-2.10 6号:0.50-1.30		5号:0.85 6号:0.70		5号:V字形 6号:逆台形		・観光寺原系 ・平定形など後期後期環濠集落の一例ではないという意見も有。	
16	西牧原 (しまいばた)	都筑区	谷本川・ 鶴見川	台地	50	後期	(82) (21.5)	(110×70～80)	1.6-2.0		0.6-1.0			逆台形		
17	佐江戸原 (さえどみやはら)	都筑区	鶴見川	台地	40	中期	B溝:(約80) C溝:(約12) D溝:(5.5) E溝:(約25) G溝:(約35) H溝:(約40) J溝:(約40)	B溝(200×1207) H溝(300×2007)	B溝:3.3(上端) 0.1(下端) C溝:1.6(上端) 0.3-0.45(下端) D溝:2.5(上端) 0.1(下端) E溝:3.3(上端) 0.3(下端) F溝:2.3-3.2(上端) 0.8-1.0(下端) M-2:2.0-2.5(上端) 0.4-1.0(下端)		1.4-2.7 B溝:1.38 G溝:1.7 H溝:2.7		B溝(18000) H溝(47000)	V字形		
18	観音寺原 (かんのじやま)	青葉区	早瀬川・ 鶴見川	台地	44-57	中期	M-1:(約37) M-2:(37)		M-1:2.3-3.2(上端) 0.8-1.0(下端) M-2:2.0-2.5(上端) 0.4-1.0(下端)		M-1:1.0-1.3 M-2:0.8-1.2			段を跨った逆台形	・M1、M2ともに段の上下で埋積土が異なる。M1の段の下位は人為的に埋め戻され、上位は自然堆積。ほぼ時間を経ずに埋め戻された。	
19	関根地 (せきごち)	青葉区	早瀬川・ 鶴見川	台地	38	中期	1号:(約120) 2号:(約110) 3号:(38.6)		1号:0.8-3.15 2号:1.15-4.65 3号:1.9-3.23		1号:1.68 2号:1.83 3号:1.34			逆台形	・一部改修した跡あり。 ・3号溝東端部で溝底に4m間隔で2本のピット出土。横状断面のみ。	
20	矢崎原 (やざきはら)	青葉区	谷本川・ 鶴見川	台地	50	中期			詳細不明					未調査		
21	鹿ヶ谷 (かがや)	青葉区	谷本川・ 鶴見川	台地	31	後期			2.3(上端) 0.54(底面)		1.58			V字形	観光寺原系	
22	観光寺原 (かようこうじやま)	青葉区	谷本川・ 鶴見川	台地	28-45	中期		180×165	2.0		1.5-2.0		古(19810) 新(20210)	V字形		
23	西八原 (にしははら)	緑区	恵比寿川・ 鶴見川	台地	55	後期?	(90)		3.0		1.5			逆台形	観光寺原系	
24	藤林 (ふじばやし)	緑区	恵比寿川・ 鶴見川	台地	40	中期	(9)		上層幅か:1.6? 溝底幅:0.6		0.85			V字形		
25	谷津田原 (やつたはら)	緑区	恵比寿川・ 鶴見川	台地	37-44	中期								V字形	工事の際に不時発見	
26	寄根原 (よねがはら)	緑区	鶴見川	台地	31	後期	(50以上)									・観光寺原系 ・ピット14個(深さや広がりなど様々) ・北半分は幅広で、両端上縁に段。段は埋積土面から段を掘り出したもの(段は両側や内側のみなど)。
27	横浜市道環濠 2号線No.6	南区	大岡川	台地	43	後期	(32.8)		3.4		1.1			U字形		
28	横浜市道環濠 2号線No.4 〔清水ヶ丘〕	南区	大岡川	台地	52	後期	(34.5)		2.5		0.8			V字形		
29	野原遺跡群 C地区 (のやしろ)	港南区	柏尾川	丘陵 先端	60	後期	約250	82×73	1.9-2.9 上層2.04下層0.25 上層約2.0 上層2.88		1.0-1.6 深さ1.32 深さ約1.6 深さ1.62		(4890)	V字形		
30	そとごう	戸塚区	柏尾川	台地	50	後期	南溝:(52) 西溝:(68) 東溝:(95)	95×65 (100×65)	1.7-2.6		1.2-1.7		(8170)	V字形～逆台形 (ほぼV字形)	・西溝中央部では黒色土層中に散在する埴土 ・溝の埋まった時期が大きい時期	
31	東野台 (ひがしのだい)	戸塚区	宇田川・ 柏尾川	台地	50	中～後期			1.9					V字形		
32	上倉第1 (かみくらだい)	戸塚区	柏尾川	台地	80	中期	(31)		建設面:1.6-2.5 底面:0.12-0.4		1.0-1.2	40-45		V字形		
33	東倉寺上 (あづかむら)と うらんどんりや	町田市 (青葉区)	恵比寿川・ 鶴見川	台地	71-77	中期	(35.5)		1.8		1.4			V字形		

参考:小倉淳一 2015 「関東地方における弥生時代の溝」論集 環濠集落をめぐる諸問題2015

中期



中期～後期



後期



POINT

中期と後期の環濠

中期と後期の環濠の溝の幅や深さにはそれほど違いは見られませんが、環濠そのものの大きさに違いがあります。中期は2万㎡ぐらいの大きさが多く、後期は5千～6千㎡ぐらいの環濠が多くみられます。

環濠を掘る

Q1 どんな溝を掘っていたの？

横浜市内の環濠の形はV字形や逆台形、U字形などがあります。深さは1m前後が多く、最深でも2mぐらいです。当時の弥生人（西日本渡来系）の平均身長が出土人骨より男性163cm、女性151cmと推定されているので、身長程度の深さの溝を掘っていたと思われます。幅は2m前後が多く、広いところでは4mあります。

Q2 どんな人たちが掘っていたの？

狩猟採集生活である縄文時代の労働は基本的に性によって分割され、農耕が始まる弥生時代になると、男女協業の側面が強いと考えられています。耕地や水をめぐる争いなど、男性の役割が強まり、男性優位な労働への変化が考えられます。子どもや老人を除いた成人男性が作業していたのでしょうか。10代の青年から50歳代ぐらいの壮年までの中には、作業指示をする熟年、壮年クラスの有力者がいたかもしれません。



池子遺跡（神奈川県逗子市）出土の編みかご

神奈川県教育委員会蔵

口縁部：クマヤナギ属の枝を湾曲させたもの
※上記資料は案部分の樹種は不明ですが、海老名市河原口坊中遺跡から出土の編組製品は主にタケ無科を材料に用いています。



環濠その後

大塚遺跡南環濠の遺物出土状況

Q3 何人ぐらいで掘ったの？何日ぐらいかかったの？

掘削人数は、完掘されている大塚遺跡で、30人で掘っても1か月から1か月半かかると試算がされています。大塚遺跡では、住居跡の総数は115軒で、同時期に建っていた住居は20軒前後と見積もられています。1軒当たりに平均5人前後が住んでいたとすると、ムラの人口を約100人と推定できます。この中で成人男性が世帯に1〜2人だとすれば、かなり大規模の工事だったことが考えられます。

Q5 なんのために作ったの？

以前は、当時の社会は戦争・戦乱があり、そのための集落の防御との見方が強かったのですが、関東地方の集落では、一部をのぞき、土塁や木柵があったとする例は乏しく、このことから、戦いのための防御施設としてだけの機能は想定しづらくなっており、居住範囲の区画や、集団の内と外、土地の区画占有意識の表れだったとも捉えられていますが、はっきりとした答えはわかっていません。

環濠はその後、人々の生活の中で様々な使用がなされたようです。左写真のように使用済みの土器などの生活用品は環濠からよく出土します。特に、環濠が徐々に機能を失い、埋まってくると頻繁に投棄されます。また大阪府池上曽根遺跡では人や動物の糞便や腐肉を食べるコガネムシの一種のマルエンマコガネやネズミなどが、愛知県朝日遺跡からもマグソコガネが大量に見つかり、環濠内に溜まっていた水には下水などの汚れた水が流れ込む水域に多くいる珪藻類もたくさん含まれており、かなり汚れていたことがわかります。濠の中からは糞石（糞が化石化したもの）も大量に見つかり、トイレとして使用された例もあります。

権田原遺跡の環濠を掘る作業風景復元

Q4 どんな道具を使ったの？

01 掘削具

弥生時代には木製農耕具が水稻農耕の技術とともに大陸から伝播してきました。「農耕具」と呼称する鍬や鋤などは土木工具としても性格もあわせもちます。当時、鉄がまだそれほど普及していませんので、基本的には木製の鍬などで濠を掘っていたと考えられます。鉄の刃先だけつけたものも弥生時代後期から西日本を中心に増加します。

権田原遺跡の環濠に残った工具の痕から、横幅が13cm、17cmの工具を使用していたことがわかります。また工具痕は丸みを帯びていることから、下の写真のようなで丸みの帯びた刃部を持つ狭鍬を使用していたことが想定されます。

02 運搬具

土を運び出す道具を、ここでは編みかごを想定しました。むしろ、鍬などの土掘具を使用して、多少は土を外へ掻き出すことはできたかもしれません。

都筑区大塚遺跡では環濠の外側に土を出していたことが明らかにされており、外側への土の排出を考え、編みかごで運んだ可能性を提示しました。出土している編組製品は、他の用途にも考えられています。

画：さぶりゆきこ

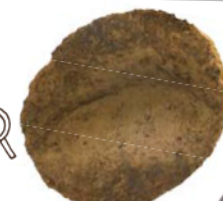
一口メモ〜鍬について〜

鍬などの多くの農耕具は堅いカシなどの広葉樹の根柢材が使われていました。

鍬には孔に柄を差し込む「直柄」と反柄や膝柄といった曲がった柄を樹皮や繊維質の紐などで縛る「曲柄」があります。右写真の河原口坊中遺跡出土の鍬は孔に柄の一部が残っているのがわかるように直柄です。



権田原遺跡の環濠にみられる掘削痕



権田原遺跡の環濠の掘削痕剥ぎ取り



河原口坊中遺跡（神奈川県海老名市）出土の鍬

鍬本体：イチイガシ、根柢
鍬柄：ヤナギ属、苧もち丸木

神奈川県教育委員会蔵

○講座 平成28年度「横浜の考古学」

栄区の重要遺跡



栄区制30周年を記念して、栄区内で発掘された遺跡について取り上げ解説します。

11月11日(金) 13:30 ~ 16:00

1. 公田ジョウロ塚遺跡—縄文時代の大形人面把手?
2. 上郷深田遺跡—古代の製鉄遺跡

11月18日(金) 13:30 ~ 16:00

3. 七石山横穴墓—独川流域に展開した古墳時代の墓群
4. 笠間中央公園遺跡 ほかに中世鎌倉道とやぐら

◇日時: 平成28年11月11日・18日(金)

◇会場: 本郷地区センター 大集会室

定員: 100名 (2日とも参加できる方)

◇費用: 1,000円 (資料代)

◇申込: 往復はがきに講座名・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、埋蔵文化財センターへ

◇締切: 平成28年10月28日(金) 必着

主催: (公財) 横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
共催: NPO 法人さかえ区民活動支援協会



編集後記

「埋文よこはま」32より紙面を増やし、リニューアルしました。毎回テーマを決めて、より読者の皆様におかれやすく、そして皆さんの近くにある遺跡をもっと身近に感じていただけたらという思いで、作っています。今回の環濠特集で紹介いたしました「横田原遺跡〜弥生中期編」報告書は今年度刊行予定です。また春には展示も行う予定でおります。皆さん楽しみにお待ちしております。(担当N)

《引用・参考文献》

- ・大阪府立弥生文化博物館 2001 『大阪府立弥生文化博物館図録22 平成13年春季特別展 弥生都市は語る 環濠からのメッセージ』
- ・小倉淳一 2015 「関東地方における弥生時代の溝」『論集 環濠集落をめぐる諸問題2015』《環濠(壕)論集》刊行会
- ・横浜市埋蔵文化財センター 1991 『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告Ⅻ 大塚遺跡—弥生時代環濠集落址の発掘調査報告書Ⅰ 遺構編—』
- ・横浜市歴史博物館 1995 『開館記念特別展 弥生の「いざ」と環濠集落—大塚・鹿勝土遺跡の時代—』
- ・横浜市歴史博物館 2006 『大塚・鹿勝土遺跡国指定20周年 遺跡公園開館10周年記念企画展 弥生の人びとの眠る場所—方形周溝墓と環濠集落—』

○第8回地域歴史散策

栄区内の古道を歩く1

栄区内には鎌倉道をはじめ、古道がいくつも走っていたことがこれまで分かっています。このうちのいくつかを実際に歩いてみて、当時の人々が通った道筋を実感し、歴史を学びます。

◇日時: 平成28年11月26日(土) (時間未定)

◇集合: 大船駅改札前(予定)

◇対象: 中学生以上(健脚向きです)

◇人数: 25人(応募者多数時は抽選となります)

◇費用: 500円(資料・保険代)

◇申込: FAXが往復はがきに行事名「地域歴史散策8」・住所・氏名(ふりがな)・連絡先(FAXの場合はFAX番号も記入)・申込人数・「埋文よこはま」34を見た旨を記載し、埋蔵文化財センターへ

◇締切: 平成28年10月15日(土)~11月15日(火)必着

埋文センターからのお知らせ

エントランス展示、図書室を少しリニューアルしました。来館者の皆さまからのお声を受け、入口の玄関展示では、最新の報告書の成果をもとにした展示スペースを新たに設けました。図書室は、横浜市の発掘成果を記載した報告書をより見やすい場所に移動しました。是非、ご活用ください。

《埋蔵文化財センターのご案内》

JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行きまたは港40系統「栄ブルー」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き 終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9時~17時となっています(受付16時まで)。
- ・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

埋文よこはま 34

発行日 2016年9月30日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒247-0024 横浜市栄区七里 2-3-1
TEL. 045-890-1155
FAX. 045-891-1551